

2021 年度 事業計画

I. 概要

少子高齢化・人口減少の急速な進展、リフォーム・既存住宅流通等の住宅ストック活用型市場への転換の遅れ、省資源・省エネルギーの推進等の社会情勢への対応、安全・安心な住宅の確保等住宅をめぐる様々な対応すべき課題がある。また、新型コロナウイルス感染症の拡大を契機とした生活様式・ニーズの変化への対応が求められている。

2021 年度は、新たな住生活基本計画の初年度として、同計画に基づく各種施策展開への対応が重要である。

こうした状況を踏まえつつ、「良質な住宅部品の供給・普及」「優良住宅ストック社会実現に向けた貢献」という当協会（ALIA）のミッション遂行に向け、中期活動計画（2020～2025 年度）で掲げた三つの重点項目に沿って、各専門部会、空間等別部会、部品別委員会等を中心に事業活動を展開する。

また、「住宅部品×SDGs 宣言」を踏まえ、主要活動事項と各部会・委員会等の事業計画に国連が掲げる SDGs（持続可能な開発目標）の対応目標（※）を明示し、事業活動が社会課題の解決や住宅産業の持続的発展に寄与することを意識しながら、事業を推進する。

その際、（一財）ベターリビング（以下「BL」）をはじめとする関連団体との連携を密にし、事業活動を展開する。

※ 2021 年度事業計画での対応目標は、全 17 目標のうち下記の 9 目標。

- | | |
|----------------------|-----------------------|
| 3：すべての人に健康と福祉を | 7：エネルギーをみんなに そしてクリーンに |
| 8：働きがいも経済成長も | 9：産業と技術革新の基盤をつくろう |
| 11：住み続けられるまちづくりを | 12：つくる責任 つかう責任 |
| 13：気候変動に具体的な対策を | 15：陸の豊かさを守ろう |
| 17：パートナーシップで目標を達成しよう | |

II. 主要活動事項

1. 良質な住宅部品の供給・普及

(1) 環境・健康に配慮した住宅部品の供給・普及

〔SDGs 目標：3、7、12、13、15〕

- ① 改正建築物省エネ法、ZEH(ゼロエネルギーハウス)等の住宅・建築物の省エネ化に関する諸制度について、情報収集・対応方策の検討等を行う。
- ② 断熱性能等に優れた外皮仕様について、工務店や一般消費者へ普及を進める。
- ③ 開口部の熱性能評価プログラム「WindEye」について、ホームページの改善や操作性の向上を通じ利用促進を図る。
- ④ 住宅の温熱環境と健康に関して、各種研究等の情報収集、普及に向けた取り組み等を行う。
- ⑤ BL-bs 部品を含む BL 部品の普及促進に努めるとともにユーザーへの BL 製品

の認知度向上を図る。

- ⑥ 魅力ある BL 部品のために、認定基準・評価基準の改訂作業に協力する。
- ⑦ BL が主催するブルー&グリーンプロジェクトに積極的に協力する。

(2) 住宅・住宅部品に関わる新たな課題への対応 [SDGs 目標：3、8、9、12]

- ① 省エネ、働き方改革、子育て支援などの課題に対応するための住宅部品のあり方についての情報収集、調査を実施する。
- ② 新型コロナウイルス感染症の拡大を契機とした生活様式・ニーズの変化をはじめ、住宅部品と消費者のかかわりを調査・研究する。
- ③ 次世代の住宅に求められる IoT 等の新たな技術・サービスに関し、国や関係機関の研究、施策等の情報収集を行うとともに、今後の ALIA の取組み方針・内容について検討する。
- ④ BIM 等その他、国の住宅関連施策や社会情勢等について常に情報収集を行い、新たな課題に迅速に対応する。

2. 「住宅部品の点検」を核とした優良住宅ストック社会実現への貢献

(1) 安全安心な住宅部品のあり方の追求 [SDGs 目標：12]

- ① 住宅部品ごとに、故障時の危険度の大小、点検のしやすさといった観点から類型化を行い、望ましい点検のあり方について研究する。
- ② 住宅部品の劣化・故障に対する消費者の意識・行動を調査し、商品開発や意識啓発等につなげる。

(2) 適切な維持管理（点検）からリフォームへつなげる仕組みの構築

[SDGs 目標：8、11、12]

- ① 「住宅部品点検の日」活動の推進を進めていくこととし、第10回シンポジウムを開催する。また、消費者向けイベントへの参加、消費者団体を通じた普及などを推進する。これらの活動にあたっては、点検キャラクター「ジュウテンジャー」の効果的活用を図る。
- ② 「自分で点検！ハンドブック」のビルダーへの普及とともに、ビルダーを通じた新たな啓発ツールの企画検討を行う。
- ③ 住宅部品関連団体との連絡会を継続的に開催し、点検に関する情報共有、消費者への情報発信方策の検討等を行う。
- ④ 住宅部品の点検にとどまらず、経年劣化による危険な部品の取換えやリフォームへの展開方策を探る。
- ⑤ 「安心R住宅」など国のリフォーム関連施策の情報収集・提供、対応方策の検討等を行う。

3. 情報発信・政策提言・提案の強化 [SDGs 目標：17]

- ① 国の制度・予算に関する要望を取りまとめ、(一社)住宅生産団体連合会（以下「住団連」）等関連団体と連携して要望を行う。
- ② 住団連、(一社)ベターライフリフォーム協会、(一社)住宅リフォーム推進協議会など関連団体と連携しつつ各種活動を展開する。

- ③ 機関誌 (ALIA NEWS)、ホームページ、メールマガジンのそれぞれの特性を考慮しつつ、会員及びユーザーへの情報発信を充実する。
- ④ 研究成果報告会を開催するとともに、各事業の進行に合わせ、情報発信等の広報活動を行う。

III. 事業企画部会 [SDGs目標：全般]

- (1) 事業計画や予算、規程の変更案、部会委員会の体制見直しなど、運営委員会への付議事項について、検討を行う。
- (2) 住生活関連の法令・制度、助成策、金融政策、税制等に関し、情報の収集と対応方針の検討を行う。
- (3) 中期活動計画及び「住宅部品×SDGs 宣言」を踏まえた事業活動の調整等を行う。
- (4) 優良住宅部品認定制度の見直し等の検討に参画し、ALIA としての意見集約及び会員企業への適切な情報伝達を行う。
- (5) 会員に対する魅力充実方策、新規入会の拡大方策等の検討を引き続き進める。

IV. 広報部会 [SDGs目標：12、17]

中期活動計画に基づき、以下3点について、国策等情報の収集とタイムリーな発信を行うと共に、ALIA事業の認知度向上を目指し、各部会・委員会と効率的に連携した広報活動を展開する。

- (1) 環境・健康への配慮、新たな社会要請・課題を踏まえた良質な住宅部品の供給・普及
- (2) 安全安心な住宅部品のあり方、および適切な維持管理からリフォームへの仕組み構築等の住宅部品点検を核とした優良住宅ストック社会実現への貢献
- (3) 情報発信の強化、政策提言、市場基盤構築に繋がる提案の強化

【ALIA NEWS編集委員会】 [SDGs目標：17]

活動方針

- (1) 会員企業へ有益となる情報提供
ALIA、BLの活動内容の紹介や行政動向、市場のトレンド紹介や解説を記事にして、会員企業へ広く情報提供する。
- (2) ALIA事業の認知度向上に貢献
ALIA NEWSのコンテンツの一層の充実をはかり、さらにWEBや他部会と連携しながらALIA事業の認知度向上に貢献する。

活動内容

- (1) ALIA活動成果の積極的な普及のための情報発信
ALIAの活動成果をより広め、関連団体等との連携、活用につながるような記事作成や効果的な情報発信をする。
- (2) 消費者認知・浸透につながる情報発信

「住宅部品点検の日」活動の推進や、会員企業の新商品・新技術に関する記事、その他消費者に身近な情報をタイムリーに紹介する。

- (3) 関連団体と連携による重点テーマ（温熱/省エネ、点検/リフォーム、防災/レジリエンス）の普及・啓発

上記重点テーマについては、広く一般の消費者にも伝えていくべきであると考え、ALIA NEWSでは会員企業がお客様へ紹介、情報提供しやすいよう、わかりやすい記事として提供する。レジリエンスについては、台風・地震などの災害や感染症の流行により、安心な暮らしが求められている現在、住まいでできる暮らしのレジリエンスの浸透と普及のため特集記事や連載などによって発信を強化する。

【WEB企画・管理委員会】〔SDGs目標：17〕

会員相互の理解や交流、情報共有などの利便性を高めること、また、会員内外への情報提供を充実させることを念頭に、WEBサイトおよび定期メールマガジンを企画・管理・運営する。（広報部会、住宅部品点検推進部会と連携）

- (1) ALIAの主要行事や活動内容を発信する。

例：理事会・総会、住宅部品点検推進活動（シンポジウム等）

- (2) WEBサイトの充実を図る。

① 必要に応じてコンテンツの見直し・新規作成を行う。

② 活動成果のPRをする場として整備する。

例：委員会の研究内容や成果の掲載

③ サイト活用を希望する部会・委員会をサポートする。

例：「住宅部品点検の日」シンポジウム関連、消費者普及に向けたコンテンツ作成など

④ 住宅部品点検スペシャルサイト「ジュウテン」の消費者の認知度を高めるための方法を研究する。

例：定期的な情報発信（点検ポイント等）

SNS（LINE、Instagram、Twitter、Facebook）の活用

検索サイトへの広告（バナー広告等）

消費者（子ども・家族）向けコンテンツの充実

外部機関との連携（メディア、業界団体等）

- (3) WEBサイトを管理する。

① WEBサイトの運用ルールおよび掲載手順の見直しを行い、周知をはかる。

② アクセス状況を把握し、必要に応じて各部会・委員会へ提示する。

③ 古い情報を整理する。

- (4) 会員にWEBサイト掲載情報を周知する「定期メールマガジン」を企画・配信する。

【イベントWG】〔SDGs目標：12、17〕

中期活動計画を踏まえ、住まい手が、住宅部品点検の重要性に気づき、点検や交換やリフォームを行い、安全で快適な生活を実現するために、以下の活動を行う。

- (1) 「第10回住宅部品点検の日シンポジウム」の開催

- ① 点検からリフォームや住宅の価値向上への展開を意識することで、会員・ビルダー・ユーザー皆が点検を身近なものに感じるようになるシンポジウムプログラムを企画する。
- ② ポスター・チラシの作成、ホームページでの告知や関係先・メディアへの広報、消費者啓発団体と連携した点検推進活動の認知を図る。
- (2) 住宅部品点検推進部会 4 委員会等との連携及び協調。
 - ① 上記シンポジウムプログラムを住宅部品点検推進部会 4 委員会と一緒に検討・実施する。
 - ② 「研究成果合同報告会」等、各部会・委員会と協働による効果的イベントを実施する。
- (3) 「ジュウテンジャー」の効果的活用の検討
 - ① 部会・委員会で作成する「ジュウテンジャー」を使った動画等の作成の支援を行う。
 - ② イベント等で使える「ジュウテンジャー」のグッズを企画する。

V. 専門部会

1. 消費者・制度部会〔SDGs目標：9、12、17〕

先駆的な住宅設備・建材メーカー等で構成する当部会は、将来的にも豊かな暮らしができるような社会とするために、良質な住宅部品の供給・普及及び優良住宅ストックの実現に向けて、以下事業に取り組む。

(1) 住宅部品と消費者との係りの調査・研究

「長くなったおうち時間での生活者意識調査—住宅部品（水廻り、設備、開口部、内外装）編一」（仮称案）

コロナ禍により新しい生活様式というキーワードが生まれるなど、生活者の在宅時間が長くなり、住宅部品に触れる機会も多くなった。住宅部品に対する新たな気付き、要望等が顕在化していることが想定され、調査することとした。

(2) 消費者経営の在り方について

同業種・異業種に係らず消費者接点（施設、イベント、工場、コールセンター等）を訪問し、交流することで住宅設備・建材業界の消費者経営の参考とする。

(3) 建築行政・制度情報の収集と展開

他団体等で、建築行政情報を入手し、理解を深めるとともに、当業界への影響力を研究する。

建築基準法で当業界に係る事案の適正な対応方法の知見を深める。

(4) その他

各部会・委員会と必要に応じて情報交換を行い、快適な住生活の実現に向けた活動を共有する。

2. 環境部会〔SDGs目標：7、11、12、13、17〕

新型コロナウイルス感染症をきっかけに変化した住まい手の意識調査を行い、新しい生活様式の中で求められる住宅設備・建材の方向性の調査研究を行うとともに、

国交省・経産省・環境省の環境に関連する政策情報の収集・情報共有を行い、対応策の検討を行う。

(1) 調査研究事業

新型コロナ感染症をきっかけに変化した住まい手の意識調査を実施し、新しい生活様式の中で求められる住宅設備・建材の方向性を検討する。

・調査手法：Webアンケート

・調査項目：住まいで重視すること、住宅設備・建材の優先度の変化、コロナ下で省エネ・省エネリフォームに関する意識の変化等を検討予定

(2) 各種施策等の情報の収集・共有と課題把握を行い、対応策を検討する。

① コロナ渦における国・地方自治体の各種経済対策の情報

② 住宅の温熱環境と健康に関する各種研究の情報

③ 新しい住生活基本計画（全国計画）の情報

④ 国土交通省が行う既存住宅流通、リフォーム政策の情報

⑤ 国土交通省・経済産業省・環境省が推進する省エネ・省CO2・ZEHに係る事業の情報

⑥ 国土交通省・経済産業省が行うIoT技術等を活用した次世代住宅に関する情報

⑦ 住団連の住宅性能向上委員会WG・SWG活動の情報

(3) 省エネに優れた住宅・施設等を移動委員会で視察を行い、先進事例の情報収集を行い、今後の各社の環境活動参考にする。

3. リフォーム・施工部会 [SDGs目標：11、12、17]

活動方針

社会資本整備審議会のテーマである「既存住宅流通活性化のための良質な住宅ストックの形成及び消費者保護の充実」踏まえ、次の事項について、調査研究及び実現に向けた提言を行う。

(1) 若手子育て世帯や高齢者が安心して暮らすことのできる住生活の実現

(2) 新たな暮らし方（テレワーク等）に対応した既存住宅流通と空き家利活用

(3) 上記とリンクしたリフォーム市場の活性化

活動内容

(1) リフォーム活性化ために

① リフォーム関連団体への参加、連携を図る。

② 行政への提言

良質なストック形成に繋がる、長期優良住宅化リフォーム推進事業など行政施策について、（一社）住宅リフォーム推進協議会、住団連など関連団体と連携し行政への提案を行う。

③ 業界へのフィードバック

同団体へのプレゼンスの強化、ALIA会員企業へのホットな情報を発信する。

(2) 調査研究事業の実施

① リフォームによる新たな住まいかた・良質な住まい環境に向けた課題を生活者意識調査により把握する。

② 上記成果をALIA参加企業及び住団連などに実務課題へのヒントとしてフィードバックする。

- (3) 技能者問題に関して、住団連の技能士問題委員会に参加し、工業会関連との連携を図る。

4. 住宅部品点検推進部会 【SDGs目標：11、12、17】

居住者の皆様に安心・安全で快適で豊かな住生活を送っていただくためには、住宅部品の経年劣化による事故を防ぐ必要があり、そのためには適切な時期に住宅部品の点検を行い、異常があれば然るべき対応を行う必要がある。当部会では各委員会の具体的な取組み課題と目標を明確にして活動を行い、住宅部品点検の普及・促進に繋げていくとともに、関連業界と連携して点検を常態化し、故障前の取替を具現化することを目指し、次の活動を展開する。

(1) 点検文化の普及・啓発活動を行う

- ① 点検に対するビルダーの理解向上を目的とした新たな啓発ツールの企画検討・制作を行う。
- ② 「自分で点検！ハンドブック」のこれまでの販売状況を振り返り、新たな啓発ツールも加えたビルダーへの更なる普及啓発策を検討し、実施する。
- ③ 消費者関連団体と連携したイベントを企画・検討し、消費者への点検文化の普及・啓発活動を行う。
- ④ 「ジュウテンジャー」を活用した消費者への新たな普及・啓発策を検討し実施する。

(2) 点検のあり方を検討し、有用な情報発信・提案を行う

- ① 住宅部品の類型化を進めカテゴリ毎の点検の意味、位置づけを整理
- ② 消費者の皆様が点検に係わって頂くための課題整理と取組の提案

(3) 関連業界を通じて、消費者へ点検の必要性の認知浸透を図る

- ① 住宅部品関連の団体との交流を図りながら、関連業界と連携し住宅部品点検の普及・啓発活動を進める。
- ② 住宅部品関連の団体に対し「ジュウテン」サイトの周知を進め、リンクの拡大とその利用促進を図る。

【点検普及ビルダー対応委員会】 【SDGs目標：11、12】

「ビルダーを通じて消費者に点検するメリット・しないデメリットを認識させ、消費者自ら点検やお手入れすることで、突然の被害にあわない安心な暮らし、適正な時期での住宅部品の交換による費用（お金）抑制ができています。また点検を通してビルダーと消費者の関係が強まり、ビルダーの商売にも繋がっている。」ことを目指し、以下の活動を行う。

(1) ビルダーを通じた新たな啓発ツールの企画検討・制作

点検に対するビルダーの理解向上のための新たな啓発ツールを制作する。

内容は、住宅部品の寿命・事件事例、点検によるメリットなどとし、ツールへのリサイクルペーパー使用を検討する。

(2) 「自分で点検！ハンドブック」改訂版および新たな啓発ツールを用いたビルダーへの更なる普及啓発策の検討・実施

- ① 「自分で点検！ハンドブック」のこれまでの実績をもとに更なる普及策を検討、実施する。

- ② インターネットを活用したよりわかりやすい点検情報との連携を検討する。
- (3) 「自分で点検！ハンドブック」の改訂
長期使用製品安全点検制度の対象製品の見直される見通しである。それへの対応と、他の要望と合わせて検討し、改訂を行う。

【点検普及消費者対応委員会】 【SDGs目標：11、12】

安全で安心・快適な住生活をおくるためには、居住者が住宅部品の長期使用の危険性を認識し点検・維持管理を行なうことが望まれる。また、これにより良質な住宅ストックの形成、リフォーム需要の顕在化に繋がることが考えられる。当委員会では、居住者となる消費者に対し点検文化の啓発・普及のテーマに取り組む。

- (1) 消費者関連団体との連携し消費者への普及啓発活動を行う。
 - ① (公社) 全国消費生活相談員協会 及び (公社) 日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会 (NACS)
 - 1) 消費者団体職員への普及啓発
 - ・住宅部品ショールーム研修会、工場見学、意見交換会の実施
 - 2) 消費者関連団体を通じた消費者への普及啓発ツール活用方法の企画検討
 - ・消費者セミナー、講座を通じた普及啓発
 - ・消費者団体イベントの活用
 - ② 東京都消費者月間実行委員会
 - ・東京都交流フェスタ等の出展検討
- (2) 新たな消費者啓発策の企画検討
 - ① 「ジュウテンジャー」ぬり絵企画の検討実施。
 - ② 「ジュウテン」サイト内の「ジュウテンジャー」動画の改定（ナレーション追加）

【業界連携委員会】 【SDGs目標：11、12、17】

活動方針

住宅部品点検推進部会の活動方針を受けて、点検が常態化することを目指し、関連団体と連携し住宅部品点検の普及・促進を図る。

- (1) 各住宅部品関連団体とALIA相互で点検普及に関する情報共有や交流を図り、更に連携を深めながら、関連業界を巻き込み住宅部品点検活動を推進する。
- (2) 「住宅部品点検の日」の主旨に賛同する協賛団体を幅広く募るとともに、それらの協賛団体と連携し一般消費者・工務店等への情報発信等を行う。

活動内容

- (1) 住宅部品関連団体との交流
 - ① 各団体のレベルアップや意識啓発を目的として、「住宅部品関連団体連絡会」を企画、開催する。現在の状況を鑑み、従来の集合型だけではなく、オンラインでの開催も検討する。
 - ② 各協賛団体と点検普及に関する課題の共有化を図るとともに、消費者団体等とも連携しながら、共通課題である一般消費者への普及に向けた方策等を検討する。
- (2) 普及・啓発活動

- ① 「住宅部品点検の日」シンポジウム開催に向け、これまでの協賛団体に加え、新たな協賛団体の獲得を目指す。
 - ② シンポジウムの協賛団体を中心に「ジューテン」サイトの周知を進め、リンクの拡大とその利用促進を図る。
- (3) 点検を普及させる仕組み作りに向けた取組み
- ① 消費者やビルダーにとってメリットとなる点検の仕組み作りに向けて、関連団体との繋がりを活かして、点検の取組みに積極的な団体を中心に求められる仕組みについてのヒアリング調査等を実施し、仕組み作りの検討に必要な情報を収集する。
 - ② ヒアリング調査等においては、併せてALIAと連携した活動についての可能性も探る。
 - ③ ヒアリング調査等にて得られた有用な情報は、必要に応じて住宅部品点検推進部会や他の委員会等とも共有する。

【住宅部品点検研究委員会】 【SDGs目標：11、12、17】

中期活動計画を踏まえた住宅部品点検推進部会の活動に対し有効な情報の収集や検討、活用及び発信を行う。

- (1) 住宅部品の類型化を進め点検の意味、位置づけを整理し、将来的に、住宅価値を高める（維持する）或いは住宅部品の取替を促進する点検のあり方の検討に繋げて行く。
- (2) 消費者団体、直接消費者と接している住宅生産者との意見交換、ヒアリング等を通じて、消費者の皆様が点検に係わって頂くための課題整理と取組みを提案する。（新たなツールの作成等）
- (3) IoT関連の講演会の企画など、IoT情報について継続ウォッチングを行う。（省庁、大学関連の有識者及び住宅メーカー担当者等）

VI. 空間等別部会・部品別委員会

1. トイレルーム部会 【SDGs目標：3、7、8、12、17】

【温水洗浄器委員会】 【洗面化粧ユニット委員会】と合同開催

消費者の方へ「快適かつ安全で安心な住生活をおくっていただくため」の情報提供に取り組む。また、商品およびその周辺情報の収集と共有や課題に対応する。

- (1) 建築物省エネ法、ZEH等の住宅の省エネ性能向上に関する施策等へ対応する。
「情報の収集と共有、課題把握と対策の検討」
- (2) 住宅の温熱環境や健康に関する研究結果等情報の把握と情報伝達展開を検討する。
- (3) 家事負担軽減に資する住宅部品の研究結果等情報の把握と情報伝達展開を検討する。
- (4) 住宅部品を安全・安心にご使用いただくための点検の普及に向けた活動を推進する。
- (5) コロナ禍における消費者の機器へのニーズ・シーズ把握に向けた検討と対応を図る。消費者・制度部会における調査事業とも連携して進める。

- (6) 上記(1)～(5)も鑑み、住宅部品の基礎知識サイト「アメニティCafe」掲載情報の見直しを検討する。
- (7) 各専門部会、BLからの課題、協力要請事項に対応する。
- (8) 行政動向や他の業界団体における活動情報、規格・規準の改正状況等を共有する。
- (9) 関連工業会と問題を共有し、連携して課題に取り組む。
「住宅部品出荷統計データ」作成、製品安全、省エネ、標準化、維持管理等

2. バスルーム部会 [SDGs目標：3、7、9、12、17]

【浴槽委員会】【浴室ユニット委員会】と合同開催

活動方針

- (1) 住宅の省エネ性能向上に関する浴室関連施策の情報収集、対応方策の検討を遂行する。
- (2) 住宅の温熱環境と健康に関する浴室関連の各種研究等の情報収集、調査、普及啓発を遂行する。
- (3) 次世代住宅、住宅部品に求められる IoT、家事負担軽減等の新たな技術・サービスに関し、浴室に関連する国や関係機関の研究、施策等の情報収集を遂行する。

活動内容

- (1) 浴室関連研究・施策の情報収集と対応方策の検討
 - ① 優良住宅部品の普及促進
BLの認定基準改正等に関し、当部会参加企業の意見の取りまとめを行う。
 - ② 各専門部会を通じて新たな情報の収集と共有化を行う。
- (2) 浴室空間の温熱環境、入浴実態、また入浴に関連する新たな技術・サービス(IoT、家事負担軽減等)に関する調査・研究
 - ① 「良好な温熱環境実現推進フォーラム」への対応を含め、課題改善に向けた検討を推進する。
 - ② 有識者を招いた勉強会等を通じ、課題認識の共有化と対策の検討を進める。
 - ③ 新たな商品、技術、サービスの実情を実際の使用場面、生産場面などを通して理解の進展、活用の検討を進める。
- (3) 情報の収集と発信、その他
 - ① 上記課題推進に適した施設・工場等の見学会等を実施する。
 - ② 上記課題に関連したホームページ情報(「アメニティCafe」等)の確認を行い必要に応じて更新を進める。
 - ③ 「2021年度版 住宅部品統計ハンドブック」への対応をする。

3. リビングルーム部会 [SDGs目標：11、12、15、17]

【階段・はしご段委員会】【内装システム委員会】【内装ドア委員会】と合同開催

優良な住宅ストックの形成、リフォーム事業の拡大など、中期活動計画に基づき、住宅政策等の情報の共有化、製品情報の発信を行う。

- (1) 「優良住宅部品の普及促進」に関し、BL 認定基準作成・改訂と普及策の検討、部品のPRおよび各専門部会の活動に協力する。

- (2) 住宅部品 VOC 表示ガイドライン、クリーンウッド法ガイドラインの適切な運用と普及に努める。また、必要に応じて改定等の対応も行う。
- (3) 長期使用時の安全安心な住宅部品に関して、「自分で点検！ハンドブック」の改訂や、安全な使い方やメンテナンス、「リフォーム需要の顕在化につながる情報」についてリビング関連部品の情報提供を行う。
- (4) 国土交通省施策や法令等の改正について、情報収集とリビング関連部品に関する情報発信を行う。
- (5) リビング関連部品に関して、ALIA NEWS、「住宅部品統計ハンドブック」、ホームページ（「アメニティ Cafe」等）などの媒体を用いた情報提供と普及促進を行う。

4. キッチンルーム部会 [SDGs目標：11、12、17]

【キッチンシステム委員会】【調理用加熱機器委員会】と合同開催

中期活動計画に基づき、参画企業に役立つキッチンの調査・研究を実施し、業界発展の一助とする。

(1) キッチン設備の劣化に対する意識・行動調査

キッチン設備・機器を長く使い続けるには、日々の適切な清掃に加え点検・メンテナンスが必要である。本年度は、劣化・故障に対する使用者の意識・行動を調査し、キッチン関連商品の開発、使用者点検の啓発、維持環境の充実・発展、リフォーム需要拡大への一助とする。

調査事項案

- ・機器・設備の劣化・故障を、いつ・どのように認識し行動するか？
- ・目安となる使用年数を知っているか？耐用年数を知らせるメーカーの工夫は十分か？
- ・劣化すると思っているか？劣化すると何が困るのか？劣化し困る前に何をすればいいのか？

(2) BL 事業の当部会に関わる規格／基準の改定等への協力

(3) 「アメニティ Cafe」のキッチンサイトの不適項目抽出と更新

(4) キッチン環境と施工に関する現況把握と、新たな需要調査のため、リフォーム関連業者との情報交換・勉強会を実施する。

(5) キッチン空間に係る関連施設を視察し知見を深める。

5. 住宅情報部会 [SDGs目標：7、9、11、12]

住宅情報システム委員会、テレビ共同受信機器委員会、火災・ガス警報委員会の個別活動を基本としつつ、必要に応じて3委員会に関連した講演会、施設見学会研修会等を企画し情報・課題を共有する。

【住宅情報システム委員会】 [SDGs目標：7、9、12]

中期活動計画を踏まえ、住宅情報システムに関わる課題を整理・共有し意見交換を行う。

- (1) 各社のIoT事例紹介等を通じIoTに関する知見を広め、課題の共有と対応策について検討する。また環境変化への対応に関する情報交換を行い、委員各社の取り組みや今後望まれる項目について共有する。
- (2) 建築物省エネ法やZEHの促進事例の情報収集と、導入施設の見学を通じて知見を広める。(IoT住宅やサステナブル建築物の見学会の実施)
- (3) 委員各社のリフォーム事業の紹介や課題について共有し、対象部品の適切な維持管理からリフォームへ繋げる仕組みを研究する。その中で定期点検の在り方に関する意見交換を行い、検討成果は適宜「自分で点検！ハンドブック」に反映させる。
- (4) 消費者認知を目的として、「アメニティCafe」を更新し、住宅部品に関わる最新情報を発信する。
- (5) 社会情勢並びに法・制度等の改正への対応として、行政や業界の動き、市場動向などの情報を収集し委員相互の情報共有と意見交換を行い、
- (6) 住団連への政策提言の実施を目指す。

【テレビ共同受信機器委員会】 [SDGs目標：9、12]

2018年12月1日より開始された「新4K8K衛星放送」は、開始から2年が経過し、これらの視聴可能機器台数は700万台を超え、普及が進んでいる。そのような中、当委員会では、長きにわたり安心して使い続けられるインフラを提供するために様々な検討を進めているが、既存の集合住宅に対する「新4K8K衛星放送」対応受信システムへの改修は遅れている。そのため、既存の集合住宅においても、「新4K8K衛星放送」へ対応するための課題などの検討を行うこととする。

- (1) 「新4K8K衛星放送」に対応するためのテレビ共同受信機器は、既にBL部品として認定され、新築集合住宅に対しては使用されているが、市場に多く存在する既存集合住宅の「新4K8K衛星放送」に対応する改修は遅れている。全ての放送を既存集合住宅でも視聴できるように、改修に有効なシステムやその機器検討を行い、これらの課題解決に向けた新しい技術への取り組みを行う。
- (2) 長きにわたり安心して使い続けられるインフラを提供するため、新築の集合住宅のみならず既存の集合住宅においても、「新4K8K衛星放送」対応の受信システムに改修することで、住宅としての価値向上や安心して使い続けられるインフラ提供を目指す。また、「つくる責任」として、製品本体に製造年や設計上の標準使用期間などの運用に必要な情報を記載し、設置・運用時には運用開始日を記載して頂くなど、長きにわたり安心して使い続けられるインフラを提供するための検討を行う。

【火災・ガス警報委員会】 [SDGs目標：11、12]

当委員会活動を通じて委員相互の情報共有や意見交換を行い、社会情勢の変化に伴う住宅部品へのニーズの変化を的確に捉え、以下の主題課題について取り組む。

- (1) 社会情勢変化、法・制度等の改正への対応及び要望
 - ① 超高齢化社会、国内人口減少、空き家率上昇等、今後の社会情勢の変化に伴う諸課題をタイムリーに捉え、住宅の安全高度化に向けて、住宅用火災警報機や火災・ガス警報器が果たすべき役割について情報共有及び意見交換を行う。

- ② 義務化から10年を迎えた住宅用火災警報機の確実な更新に向けた施策等、火災・ガス警報器市場の品質を維持、向上させるために必要な取り組みについて情報共有及び意見交換を行う。
- (2) 更なる普及促進に向けた取り組み
 - 電池式ガス警報器をはじめとする火災・ガス警報器の更なる普及に向けた技術革新（機能拡充等）ならびに広報活動に関わる市場情報を共有し、今後の対応について検討を行う。
- (3) 「アメニティCafe」への情報追加
 - 「アメニティCafe」内の住宅用火災CO警報器のカテゴリーを追加し、設置位置に係る情報や火災警報器種類の情報掲載検討を行う。
- (4) 情報の収集と発信
 - ① 住宅火災に関する研究論文を通じ、委員の知見を高める為に必要な情報を収集・共有すると共に、ガス警報器工業会や日本火災報知機工業会が発信する最新情報も踏まえ、ALIA NEWS等を通じての情報発信を継続する。
また住宅火災等についての講演会を開催し、委員の知見を高める。
 - ② 住宅内で普及が進むIoT機器との融合や連動等、住宅の安全高度化に向けた会員各社の情報共有及び意見交換を行う。

6. 給湯・暖冷房部会 【SDGs目標：3、7、8、9、11、12、13、15、17】

パリ協定を踏まえた温室効果ガス排出量の削減目標の達成や、2050年のカーボンニュートラル、脱炭素社会の実現に向け、住宅の省エネルギー化の推進が必要となる中、家庭のエネルギー消費の約3割を占める給湯分野での高効率なガス・石油・電気給湯システムへの切替、太陽熱利用システム等の採用を図ることが重要である。

また、高齢者社会への移行などに伴って家庭の浴槽での溺死者数が増加傾向であり、住宅内（居室および脱衣室・浴室など）の温熱環境の改善を図り、ヒートショック対策や42℃を超える熱い湯に長時間つかることで発生する熱中症対策等を推進するとともに、給湯機器や浴室暖房機等を活用した新たな価値創造にも取り組んでいくことが重要である。加えて、デジタル社会（DX）への更なる対応も必要となる。

このような状況を踏まえ、下記の活動を行う。

- (1) 傘下の委員会活動の更なる充実を目指して、タイムリーなテーマを選定し、有識者等による講演会・勉強会の実施について企画・検討する。
- (2) BL「住宅における良好な温熱環境実現推進フォーラム」での活動を通じ、一般ユーザーへの普及・啓発活動に貢献すると共に、BL-bs部品をはじめとした優良住宅部品の普及促進に努める。
- (3) 委員会がガス・石油・電気・太陽熱に分かれ、更に給湯と暖房に分かれる等多岐に渡るため、各委員会の横の連携を深め、一体感のある政策提言にもつなげるため、情報交換会を年2回程度（上期、下期各1回）実施する。

【ガス給湯委員会】 【石油給湯委員会・ソーラーシステム委員会】

【SDGs目標：3、7、8、9、11、12、13、15、17】

当委員会活動を通じて社会情勢や国の政策動向、業界情報などを共有化すると共に、関連住宅部品の普及促進、市場変化への対応、関連事業者の知識スキル向上を図る。

(1) 住宅の省エネルギー化への対応

- ① 住宅の省エネルギー化の推進およびZEHの更なる普及に関する政策動向等の情報を共有化し、今後の給湯機器のあり方について意見交換を行う。
- ② 温水機器のトップランナー基準の見直し等、国の動向について情報共有化を行い、対応機器の性能・機能の向上および高効率給湯器の普及拡大に向けた取組み等について検討する。

(2) 優良住宅部品の普及促進等

- ① BL-bs部品をはじめとした優良住宅部品の普及促進に努め、高田松原再生活動への支援を推進している「ブルー&グリーンプロジェクト」を積極的にサポートする。
- ② 適宜「アメニティCafe」の関連情報を確認し、必要に応じて内容を更新し情報発信の充実化を図る。

(3) 良質な住宅ストックの形成、リフォーム事業の拡大

- ① BL「住宅における良好な温熱環境実現研究委員会」の成果を活用した「住宅における良好な温熱環境実現推進フォーラム」での活動を通じ、一般ユーザーへの普及拡大および啓発策について意見交換を行う。
- ② 良質な住宅ストックの形成に向けた住宅政策動向等について共有化し、今後取組むべき課題について意見交換を行う。

(4) その他

- ① 当委員会に関連する重要な情報や課題について適宜共有化を図り、新たな活動につなげる。
- ② 委員の知識向上につながる研修会や移動委員会を企画・実施する。
- ③ 各専門部会や他の委員会等の活動に対して積極的に協力するとともに、連携した活動の検討を行う。

【電気給湯委員会】 [SDGs目標：3、7、8、9、11、12、13、15、17]

当委員会活動を通じて社会情勢や国の政策動向、業界情報などを共有化すると共に、関連住宅部品の普及促進、関連事業者の知識・スキル向上を図る。

(1) 住宅の省エネルギー化への対応

- ① 住宅の省エネ基準適合義務化、ZEHなどの省エネ性能向上に関する施策について行政や関係団体からの情報収集とその活用に努め、今後の給湯機器のあり方について意見交換を行う。
- ② 給湯機器のトップランナー基準の見直し等、国の動向について情報共有化を行い、対応機器の性能・機能の向上および高効率給湯器の普及拡大に向けた取組み等について意見交換を行う。

(2) 優良住宅部品の普及促進等

- ① 「BL部品（電気給湯機）」の認定基準改訂作業等に協力する。
- ② 適宜「アメニティCafe」の関連情報を確認し、必要に応じて内容を更新し情報発信の充実化を図る。

(3) 良質な住宅ストックの形成、リフォーム事業の拡大

- ① 良質な住宅ストックの形成に向けた住宅政策、長期優良住宅化リフォーム推進、IoT、住宅の温熱環境に関する研究住宅等の住宅政策について、行政や関係団体からの情報収集と今後取組むべき課題について意見交換を行う。

(4) その他

- ① 当委員会に関連する重要な情報や課題について適宜共有化を図り、新たな活動につなげる。
- ② 当委員会の活性化と委員の知見向上を目的に、見学会・研修会を計画し実施する。
- ③ 各専門部会や他の委員会等の活動に対して積極的に協力するとともに、連携した活動の検討を行う。

【暖冷房システム委員会】〔SDGs目標：3、7、9、11、12、13、17〕

当委員会での活動を通じ、社会情勢や業界情報などを共有し、暖冷房システムに係る住宅部品のニーズとデジタル社会(DX)への更なる対応についても意見交換などを行う。

- (1) 建築物省エネ法、ZEHなど、省エネ性能向上に関する施策について、情報共有および意見交換し、住宅の省エネルギー化への対応を推進する。
- (2) 「住宅部品点検の日」活動や、「自分で点検！ハンドブック」を通じて、点検に関する普及活動を推進し、良好な住宅ストックの形成、リフォーム事業の拡大を図る。また、「あんしんR住宅」など、国のリフォーム施策に関する情報共有を行う。
- (3) 住宅の温熱環境に関する研究へ協力し、健康に配慮した住宅の普及を促進する。
- (4) IoTに関する情報共有など、住宅部品に係る新たな課題対応。
- (5) BL部品の普及促進 および BL認定基準改定の協力。
- (6) 「アメニティCafe」などを通じた情報発信。

7. 開口部会〔SDGs目標：3、7、8、9、11、12、13、15、17〕

中期活動計画を踏まえ、「アルミサッシ委員会」、「断熱型サッシ委員会」、「スチール部品委員会」、「手すりユニット委員会」、「補助手すり委員会」相互の活動内容及び情報を共有すると共に、有効な情報の収集や検討、活用及び発信を行う。

【スチール部品委員会】〔SDGs目標：11、12、17〕

- (1) BL部品の普及促進、BL部品認定基準の改正等への協力
- (2) 「住宅部品統計ハンドブック」への情報提供（鋼製建具、錠前、ドアクローザの出荷統計数及び動向）
- (3) 点検の普及等に向けた経年劣化事例調査、提供
- (4) ALIA NEWS、ホームページ、メールマガジン等への情報提供

【手すりユニット委員会】【補助手すり委員会】〔SDGs目標：11、12、17〕

- (1) 住宅・住宅部品に関わる新たな課題への対応
 - ① 高強度パネル手すりの普及促進

- ② 隔板のBL認定基準制定への協力と普及促進
- ③ 歩行・動作補助手すりの認定基準の改正検討への協力と普及促進
- (2) 安全安心な住宅部品のあり方の追求
 - 社会の資産としての住宅ストックの形成・活用に結び付ける取り組みとして墜落防止手すりを長期的に使用できる仕様や施工方法などの対策が行われる製品の検討と対応。
- (3) 適切な維持管理（点検）からリフォームにつながる仕組みの構築
 - 改修用の墜落防止手すりにおける、「定期点検→故障する前の取換」の具現化への取り組み。
- (4) 消費者認知・浸透につながる情報発信・媒体の活用
 - ① 「アメニティCafe」を活用した会員及びユーザーへの情報発信
 - ② 「住宅部品統計ハンドブック」に掲載するための出荷統計データを収集

【断熱型サッシ委員会】 [SDGs目標：3、7、8、11、12、13、15、17]

- (1) 住宅の省エネ化／温熱環境整備に資する住宅部品の普及促進
 - ① 建築物省エネ法・ZEHなど省エネ性能向上に関する施策の情報を収集し共有すると共に、課題の把握及び対応方策の検討を行う。
 - ② 窓の熱性能審査委員会と連携し、「WindEye」の利用拡大に向けた使用実態・課題などを整理・分析し、普及促進策の検討を行う。
 - ③ 消費者認知・啓発の促進
- (2) 長期使用時の安全安心な住宅部品のあり方の追求
 - 「住宅部品点検の日」活動の推進、協力を行う。
- (3) 適切な維持管理（点検）からリフォームへつなげる仕組みの構築
 - ① リフォーム需要の顕在化、拡大への対応するため、国のリフォーム関連施策の情報及びリフォームに関する新技術・消費者ニーズなどに関する情報を収集し共有する。
 - ② BL-bs部品を含むBL部品の普及促進を図るため、市場要望に合った認定制度となるよう情報を収集し発信していくと共に、BL部品認定基準の改正などへの協力を行う。
- (4) 情報の収集と発信強化
 - ① 「アメニティCafe」からユーザーが望む情報を発信できるよう、掲載内容の見直し検討を継続する。
 - ② 省エネ対策及びリフォームに関する新技術の事例などの視察を行い、成功事例及び課題などの情報を収集し共有する。

【アルミサッシ委員会】 [SDGs目標：3、7、8、9、11、12、13、17]

- (1) 環境・健康に配慮した住宅部品の供給・普及
 - ① 建築物省エネ法・ZEHなど省エネ性能向上に関する施策及び住宅の温熱環境に関する情報収集と共有
 - ② 事業者が使いやすいBL部品の提案と認定基準改正作業の協力
 - ③ 住宅部品の基礎知識を幅広く紹介するため、「アメニティCafe」などの改訂をタイムリーに行い消費者への認知・啓発を促進する。

(2) 新たな社会要請への対応

- ① 換気機能付きサッシ・ドアなどの情報収集と共有（省エネ効果、感染予防対応）
- ② 抗菌・抗ウイルス基準適合建材の情報収集と共有（ドアノブ、ドアハンドルなど）
- ③ 防災・レジリエンス対応 情報収集と共有（防災シャッター、止水板、防災安全ガラスなど）

(3) 長期使用（経年劣化）と製品寿命に関する課題の整理

窓・ドアの断熱改修（外窓交換、内窓設置など）の省エネ効果や課題などの情報収集と共有

(4) 適切な維持管理(点検)からリフォームへつなげる仕組みの構築

- ① 「住宅部品点検の日」および「ジュウテン」サイトを活用した点検の啓発
- ② 「自分で点検！ハンドブック」を活用し点検に関する普及活動の推進

(5) 情報発信の強化

- ① 「住宅部品点検の日」活動への協力（点検普及）と、「ジュウテン」サイトの普及促進
- ② （一社）日本サッシ協会、（一社）建築開口部協会などの関連団体と温熱/省エネ、点検/リフォームなどの情報共有を図り普及・啓発を進める。

8. 外皮部会 【SDGs目標：3、7、11、12、13、17】

中期活動計画を踏まえ、省エネで高性能な外皮仕様の普及を図る。また、外皮の性能向上、とりわけ省エネルギー性能の向上のために関連する法律、施策に係わる情報収集、周知、推進、及び要望事項の取りまとめに協力する。

(1) 高性能な外皮仕様の普及啓発

- ① 「外皮ってなに？」パンフの改訂

2020年度作成した「災害への備え」・「WITHコロナへの対応」の追加、SDGsとの関連付け、従来5項目のブラッシュアップなどが改訂予定項目

- ② ミニセミナーの開催

2050年カーボンニュートラル宣言・省エネ法説明義務化開始・グリーン住宅ポイント制度の開始などにより、省エネ意識の向上がこれまで以上に期待されるタイミングをとらえ、核施策の周知・対応策などをきっかけとして外皮の性能向上の必要性を訴求する

内容：有識者の基調講演

2020年度作成した内容（災害への備え・WITHコロナへの対応）映像の利用

対象：工務店・設計事務所など

実施方法：オンラインセミナーも含めコロナの状況を考慮しながら検討

(2) 2020年度作成内容を「アメニティCafe」に掲載する。

(3) 情報収集

- ① 2050年カーボンニュートラル宣言に伴うグリーン成長戦略・省エネ法改正・グリーン住宅ポイント制度・住生活基本法見直しなど省エネ関連施策に関する情報を収集・共有し、部会としての要望事項の取りまとめを行う。

- ② 外皮性能向上のために、研究者などを招いて勉強会を開催する。またZEHビルダーなど住宅生産者や関連メーカーなどの視察を行う。実施方法についてはコロナの状況を考慮し、オンラインでの勉強会・視察・インタビューなどを検討する。

9. 共同設備部会

【給水ポンプシステム委員会】 【SDGs目標：12】

- (1) 給水ポンプシステムの維持管理の重要性啓発活動
 - ① マンション管理センター通信への給水ポンプシステムに関わる記事掲載を通じて、マンション管理事業者へ保守管理の重要性を啓発する。
 - ② 東管新聞に、予防保全・保守点検の重要性について広告を掲載し市場に対し啓発する。
- (2) BL制度の改定、改正への協力
 - ① 給水ポンプのBL規格の改訂検討に協力する。
 - ② 通信機能を有した、遠隔監視機能付き製品の上位規格を検討する。
- (3) 会員各社の見識を広げる為、見学会及び移動委員会を実施する。
- (4) 「アメニティCafe」を充実するため、現行の掲載内容を精査し、新製品情報等を更新する。

【給水タンク委員会】 【SDGs目標：8、11】

活動方針

- ① 給水タンクの適切な維持管理の推進
- ② 需要動向を見据えた各社事業計画の策定
- ③ 社会的役割やBCPの観点などから、給水タンクの新用途の探索と活用推進

活動内容

- (1) 「給水タンク安心支援サービス」の運用
 - ① 水槽診断の推進
 - ② 制度PRによる登録率の向上活動
- (2) 各種給水タンクの出荷実績調査
 - ① 1回／半年実施
 - ② 「住宅部品統計ハンドブック」に記載
- (3) 水槽の重要性の広報活動
各種団体、講演会、シンポジウム等への参画
- (4) 「アメニティCafe」内の「給水タンク」の継続的改善
「新水槽ビジョン」のPR
- (5) 給水タンクの新規用途探索
給水タンクの新規用途可能性の簡易調査および検討

【エレベーター委員会】 【SDGs目標：9、12】

- (1) エレベーターにおける社会要請への対応
 - ① エレベーター発注者に対するエレベーターの在り方、ニーズの調査
エレベーターの発注者に対し、今後の社会やBL部品において求められるエレ

ベーターの仕様や性能について、ヒアリング調査を行う。

② 他の住宅部品における取り組みの情報収集

メーカーのショールームを見学し、取組事例について情報収集を行う。

(2) 関係法令改正及び基準等制定への対応

2021年度において、関係法令が改正された場合のBL基準への整合化への対応

(3) 関係省庁・団体からの依頼事項への対応

国土交通省、BL等からの依頼事項への対応

10. アウトドア部会

【屋外収納ユニット委員会】〔SDGs目標：12〕

- (1) 長期使用による経年劣化で、思わぬ事故の発生を防ぐ事を目的とし、鋼製物置・自転車置場・ガレージの使用耐用年数の検討及び点検項目を抽出する。また、「自分で点検！ハンドブック」への掲載内容の案を作成し、掲載内容の確認・修正チェックを行う。
- (2) 鋼製物置における地震に対する耐久性の調査・研究として、求められる地震力に対する耐久性を制定するにあたり、まずは想定される地震力をベースに加振試験を行い、現状の実力値を測定する。
- (3) (一社)プレハブ建築協会の定期的な要請により、応急仮設住宅向けの屋外収納ユニットの生産供給可能数について現状の生産可能数量を協議し、集計して随時報告をする。
- (4) 会員各社の見識を広げる為、見学会及び移動委員会を実施する。

【郵便受箱委員会】〔SDGs目標：9、11、12〕

現在のBL認定基準が社会情勢の変化に対する要求事項に適しているかの検証を行い、表現や試験数値など見直しが必要な問題点を抽出する活動を行う。

(1) 社会情勢変化への対応

- ① 基準が現状に適しているかの検証と見直しが必要な問題点の抽出
- ② 日本郵便・ヤマト運輸・佐川急便などを招いて意見交換会の実施

(2) 長期使用時の安全安心な住宅部品のあり方の追求

お客様相談室 (BL) の連携サポート (製品情報・部品情報の提供)

(3) 情報の収集と発信

- ① ALIA NEWSへの積極的な参加
- ② 郵便受箱の出荷統計の実施と分析
- ③ 参加企業委員との親睦と情報交換

【宅配ボックス委員会】〔SDGs目標：7、8、9、11、12〕

コロナ禍において変化する市場ニーズにも配慮した、安全かつ高品質な優良住宅部品を提供し、宅配ボックスの更なる普及促進によって、環境負荷低減を推進していくことを方針とする。

(1) 普及・促進活動

- ① 宅配物再配達削減を目的とし、宅配ボックス普及促進継続
- ② 優良住宅部品 (BL認定品) の普及促進

- ③ 宅配ボックスのリニューアル促進
 - ④ 既存物件、戸建て物件への普及促進
 - ⑤ コロナ禍において変化する市場ニーズに合わせた非対面での荷物の受け渡しツールとしての宅配ボックスの普及促進と利用促進
- (2) 社会情勢への対応
- ① 政府及び国が主導する環境・経済課題解決施策への対応
 - ② 流通業者や配達業者との情報交換を通じた更なるニーズの掘り起こし
 - ③ 長期使用を配慮した安全安心な宅配ボックスのあり方の検討
 - ④ 新たな技術・サービスによる宅配ボックスのあり方の研究
- (3) 情報収集・分析と発信
- ① 宅配ボックスの出荷統計の実施と実態調査
 - ② 宅配ボックスの荷物預かり個数統計の分析
 - ③ 住宅以外の設置状況の調査
 - ④ 宅配ボックスに連動した商品の市場動向分析
 - ⑤ ALIA NEWSへの新製品情報掲載

11. 換気・配管システム部会

【換気ユニット委員会】〔SDGs目標：3、7、12、13、17〕

新型コロナウイルス流行により換気への関心・意識がより高まっている。住生活空間の空気を快適、清浄にするために換気設備が果たす役割はより高まってきている。人々の快適性や健康性が維持できる様に、適切な換気設備やその維持管理を訴求していくことが大切である。

そのような状況を踏まえ「適切な換気設備の情報共有、商品情報・維持管理情報の普及促進」との方針で、次の活動を行う。

- (1) 環境・健康に配慮した換気設備の訴求
 - 省エネ・快適性配慮商品の更なる訴求を行う（「アメニティCafe」の更新検討）
- (2) 安全安心な換気設備のあり方の訴求
 - 換気設備に関わるメンテナンスの必要性や重要性に関わる情報発信（「アメニティCafe」の更新検討）
- (3) 情報の収集と共有
 - ① 建築物省エネ法、ZEHなど省エネ性能向上に関する施策について、情報収集、課題把握、対応方策の検討
 - ② 関連する国の施策（規制、補助金、税制）の動向に関わる情報収集と意見交換
 - ③ 活動実施するにあたり、有識者との情報交換、関連施設見学を行い見識を深めより充実した情報発信につなげる。

【配管システム委員会】〔SDGs目標：3、8、9、11、12〕

2020年度は先分岐工法についてのBL基準化の検討に着手した。今後もBL基準の普及を念頭に、委員会内で意見交換を行い、工法の追加について検討を行う。

- (1) BL先分岐工法認定の方向性に合わせ、配管の耐久性評価について研究を継続する。（さや管ヘッダーと配管は耐久性が同じとみなされるが、中間継ぎ手の評価について研究を行うことも検討）

- (2) 「自分で点検！ハンドブック」に配管項目が入れられるか検討。最終的には更新の推奨時期について言及し、委員会として恒久的な対応を使用者に提示できることを目標とする。
- (3) 当委員会は専門性が高いため、幅広く他業界団体やUR（独立行政法人都市再生機構）と接点を構築し、耐久性や点検交換について、情報の共有を試行していく。また、各種専門家の方々へ講演会の依頼等を行う。

VII. その他の委員会等

1. 窓の熱性能審査委員会〔SDGs目標：7〕

- (1) 「WindEye」の普及促進
計算方法の講習会を実施。
- (2) 「WindEye」窓版及びドア版のバージョンアップ
2020年度に引き続き、2015年度（平成27年度）にバージョンアップ項目を洗い出し、費用が高額になり積み残しとなっているテーマのフォローを行う。
また、新たに要望されている案件についても、積み残し案件と優先順位を検討した中で対応する。
- (3) 「WindEye」の新シリーズ開発
現時点で「WindEye」は仕様に基づく評価に対する、2次元計算プログラムによる詳細計算の位置づけとなっている。計算の普及のために、この位置づけからの脱却を図ることを目的として、計算式は同じであるがインプットとアウトプットを入れ替えた仕組みの開発を行う。
従来：枠材質、開閉形式、ガラス仕様を指定 ⇒熱貫流率
新機能：熱貫流率 ⇒適合する枠仕様、ガラス仕様の組み合わせリスト
- (4) 「WindEye」の申請方法の見直し
計算方法の研究開発から参加されていないメーカーによる登録要望が増えてきており、かつ、その場合の申請不備、問い合わせが非常に多くなってきているため、計算実績の少ないメーカーからの申請に対する審査方法、申請補助の仕組みを構築する。

2. 統計ハンドブック編集PJ〔SDGs目標：12〕

住宅部品に係る市場動向と市場規模の変化を的確に把握するため、統計データを時系列に収集・整理し、今後の市場動向を加味した「2021年版 住宅部品統計ハンドブック」を作成し、会員企業をはじめ関係団体等に広く情報提供する。